

課業月における体験活動の先進例

大規模校で

9月(秋季)に実施!

児童が「わかる」「できる」「やりきれる」

広島市立みどり坂小学校 対象学年(5年)

【体験活動場所・宿泊場所】 島根県・三瓶青少年交流の家

【実施期間】平成26年9月2日(火)～9月5日(金)

【学校紹介】

○近況：本校は、広島市の中心部から約1.3km 東に位置し、JR瀬野駅の北斜面に造成された「みどり坂」団地の中に平成23年4月1日に広島市の第142番目の小学校として開校した。

本校の児童は、いろいろな活動に素直に取り組むことができる。しかし、自ら考えて活動し、継続する力をつけていくことに大きな課題がある。こうした児童の実態から、自己有用感や自尊感情の定着に向けて積極的な体験活動の実施を進めたり、児童の「アイデンティティ・自律・挑戦」を進めるため縦割り班の活動、多彩な学校行事を推進したりすることで、自主自律した児童の育成に努めている。5年生では、リーダーの育成を意識した諸活動への取組を中心に活動している。



○校長名：丹 雅祥

○児童数(学級数)：1006人(34学級 特別支援学級3学級含む)

○所在地：広島市安芸区瀬野西一丁目38番1号

○電話番号：082-894-9111

【体験活動のねらい】

○日常とは異なる環境での生活を体験し、児童の自立心や主体性などを育てるとともに、コミュニケーション能力など人間関係を形成するための力を育てることにより、児童の豊かな心を育成する。

○三瓶の雄大な自然を感じる中で、自然との共生の仕方について、理解を深める。

【日程(活動プログラム)】

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
	朝の活動		朝食	午前の活動				昼食	午後の活動				夕食	夜の活動				
第1日							入所式	昼食	グループワーク	野外炊飯				入浴	室長会・振り返り			
第2日	起床 朝のつどい 清掃	朝食	男三瓶山登山						野外炊飯 片付け	夕べの集い	夕食	スタンプ練習	入浴	室長会・振り返り				
第3日	起床 朝のつどい 清掃	朝食	SAP サヒメル見学				昼食	SAPサヒメル見学		スタンプ練習	夕べの集い	夕食・入浴	キャンプファイア		室長会・振り返り			
第4日	起床 朝のつどい 清掃	朝食	カプラ			振り返りの会	昼食	退所式										

【参加児童の学年別, 男女別数】

学年	男子	女子	合計
5学年	78	72	150
(特別支援学級)	2	3	5
総計	80	75	155

【課業月における体験活動を実施する上でのポイント】

- 授業時数を確保するために、年度当初に総合的な学習の時間の学習内容を見直し、野外活動で学ぶ内容について検討を行った。
- 夏休み後すぐに体験活動を行うため、事前準備の時間が限られている。そのために「活動を行う際に児童が困るかどうか」という判断基準で事前活動を行う時間の精選を行った。
- 極力教員が手を出さず、児童の様子を見守ることで、児童がすべき活動を児童自身が協力して進んで行うことができるように詳細な活動計画を立てた。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
6月	野外活動説明会(参観日)	1	特別活動	学校	担任

7, 8月	自然愛, 動植物愛護 役割・責任	4	道徳	学校	担任
	班決め・班長などの役割決め しおりづくり キャンプファイアでのスタンプ内 容の決定	3	学級活動		
9月	集団宿泊活動(3泊4日) ○ワークショップ ～活動の目標の共有～ ○野外炊飯 ○男三瓶山登山 ○スタンプ練習 ○SAP ○島根県立三瓶自然館見学 ○キャンプファイア ○カプラ ○ワークショップ ～活動の振り返り～	24 (4) (20)	特別活動 学校行事	三瓶青少年交流の家 男三瓶山 島根県立三瓶自然館	施設職員 ゲストティーチャー 教職員
9月	事後活動 ○体験活動の振り返りと自己の成長と, 今後の生活についての展望	3	学級活動	学校	担任

【体験活動の概要】

○ワークショップ形式の目標の共有とその振り返りを取り入れる。

3泊4日の中で教育効果を高めるため, 事前学習を減らし, 目標の共有と, その目標に対する評価を行うためのワークショップを2回取り入れた。目標の共有の場面では, ①プロジェクトアドベンチャーのアクティビティを取り入れることで, 児童が3泊4日でどのように協力を行うべきなのかについて体験的に学ぶことができるようにした。②全員が何を学んで帰るのかについて共有化を図ることによって, 3泊4日の中での教員がどんなことを評価するのか基準を明らかにし, 児童一人一人が集団としてどのような行動をとるべきかについて明確にできるようにした。

また, 振り返りの時間を帰校する前に取り入れることにより, 3泊4日で何ができるようになったのか, 児童自身が言葉にすることで児童の成長を自覚できるようにした。また, 学校に戻った後に, どんな学習をするのかについて伝えることで, 事後活動との関連をはかり, 事後の学習についての見通しをもたせることができた。

○野外炊飯

野外炊飯では, 教員が極力手を出さずに児童集団で課題解決することを目標に活動を行った。児童同士が何をすべきか, 「どうすればよいのか」を, 相談しながら活動を進めようと計画を行った。しかしながら, 活動日前日が悪天候であったため, 薪に火が着かず, 教員だけでは

なく、施設職員の皆さんに協力を得て、なんとか野外炊飯を終えることができた。炊飯の場面では児童だけで協力して活動を行うことができなかったが、片付けの場面では、班内で係分担をし、作戦を立ててどうすれば手際よく、そしてきれいに片付けができるかについて話し合いながら活動ができた。また、活動後には振り返りを行い、自分たちの良かったことを確認しあうことができた。

○男三瓶山登山

安全面に配慮するために、登山の研修指導員を依頼した。研修指導員には、先頭で歩くペースを作っていた。全行程6時間程度の長丁場の中、各自とも力をふりしぼって登りきることができた。途中、足元が不安な細い道があったり、下り坂ではすべり転げてしまう児童がでてきたりすることもあったが、子どもたちは、友達と助け合いながら、楽しく活動することができた。



○スタント練習・キャンプファイア

事前活動では、スタントの内容や必要な物品を決めるにとどめ、練習は行わなかった。現地での2日目夜、3日目夕方の1時間ずつの練習時間で各クラスともスタントを完成することができた。2日目の夜には発表するものが未完成で終わっていたり、対立が起こっていたりしたクラスもあったが、3日目のスタント練習では自分たちのクラスの発表に向けて心をひとつにして練習することができた。トラブルが起こったときは、トラブルの背景について聞きつつも、「目標を達成するためにはどのような態度で参加すべきなのか」についてのみ助言を行い、基本的には児童の話し合いに担任は参加しないようにした。

キャンプファイアでは、ファイヤーストームの指導員を依頼し、エールマスターをしていただいた。児童にとってはじめて出会う人が司会進行をするなか、自己開示することができ、楽しい時間を過ごすことができた。

○SAP

三瓶青少年交流の家の職員にファシリテーターを依頼した。他者と協力するためにはまず、自分が自己開示をし、そして自分が他人に「心を開ける」ことが大切であることを学ぶことができた。

【体験活動の効果を高めるための取組みのポイント(事前・事後学習)】

○事前学習は、子どもたちが集団で活動していくために必要なことのみ絞って行うようにした。特に、道徳の時間では、集団の中で、自分の役割を果たすこと、集団の中で協力することを学習した。

○事後学習では、3泊4日の振り返りを行う際に、当日の写真を提示したり、班で話し合う時間をもたせたりすることで、何を学んだかについて具体的に思い出すようにした。また、国語科で学習した意見文の書き方を活用し、3泊4日で成長したことについて、ひとつに絞り論述させた。

【交流先や施設等との連携及び安全面の配慮事項】

- 三瓶青少年交流の家主催の登山体験会に担任全員で参加した。登山中の安全面について全員で確認することができた。また、所内の生活や、活動プログラムについて打合せを行った。さらに、食物アレルギーのことなどわからないことについては、活動前日まで電話で打合せを行った。
- ぜんそくをもつ児童、食物アレルギーをもつ児童については、保護者からどの薬をどのタイミングで飲むのかについて事前に確認し、養護教諭と全担任が共有を図った。
- 全日程を通して、余裕のあるプログラムを組むことで、教員自身に心の余裕をもてるようにした。

【体験活動の成果と課題】

<成果>

- 保護者アンケートを見ると、「協調性」の高まりを感じている保護者の割合が事前よりも高まった。また「子どもの成長」について問う項目で、9月の活動直後では82%、12月には89%の保護者が肯定的な評価をされていた。

保護者アンケートの肯定的な回答率の変化

	6月実施	9月実施	12月実施
1 自律性・責任感	93.4%	95.2%	93.0%
2 自尊感情	99.2%	99.2%	98.3%
3 思いやり	88.4%	88.9%	88.7%
4 協調性	82.3%	88.9%	89.6%
5 コミュニケーション能力	63.6%	64.3%	64.3%
6 子どもの成長		82.4%	88.7%

～保護者アンケートより～

- ・熱心にいろいろなことに興味を持ち、知った情報をきちんと教えてくれます。
- ・自分のことだけでなく、周囲を見て周りに合わせて行動できるようになった。
- ・自分がやらなければいけないことを自らできるようになってきたと思う。

<課題>

- 体験活動で身に付けたことを日々の生活につなげ、子どもの成長につながるように、事前・事後活動も含めた年間を通じた学年の取組を改善する。
- 児童実態に合わせて、何を3泊4日で学ぶのか、そのためにどのような準備をするべきか、早めに体験活動への計画を立てる。